

北海道情報大学学内報



NANAKAMADO



● 目 次 ●

新年の挨拶 木下学長.....	2	語学留学体験記.....	8
海外訪問記 浜淵助教授.....	3	Library Information	9
第8回蒼天祭.....	4~5	教職員の動向.....	10
ゼミナールちょっと拝見.....	6	10~11月主要行事.....	10
CLUB自慢.....	7	編集後記.....	10

発行・北海道情報大学
〒069 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



新年の挨拶

(Virtual と Real)

学長 木下重教

明けましておめでとうございます。

新年を迎え、今世紀も余すところ3年となりました。バブルの崩壊で未曾有の危機に陥った日本も漸く立ち直りの気配がみえてきましたことは、誠に喜ばしいことであります。

この世紀末の混乱と恐慌から立ち直り、夢と希望に満ちた21世紀を築きたいというのが、いま日本人の多くの人が思っていることだと思います。

情報化社会もマルチメディア、インターネットを中心に新しい段階に発展してきました。また情報処理の応用技術も格段に進歩し、日頃松尾理事長が言われているように、まさしく第二次情報革命の時代に突入してきた感があります。

しかしコンピュータの庶民レベルへの普及という点になるとまだまだという感じが拭いきれません。今朝のテレビニュースで、わが国の小・中学校におけるコンピュータ施設の普及率は、70~80%をこえるまでに充実しつつあるが、十分に教える能力のある先生は十数パーセントに過ぎないと報じていました。

また先日、同じテレビ放送で、若い人を対象に行なったアンケート調査が報道されていましたが、それによると大部分の人はコンピュータに関心を持ち、実際にパソコンを使用した経験を持っているが、それでは貴方にとってコンピュータは必要かという問に対して、「必要である」と答えた人は数%に過ぎなかったことは極めて意外でした。

私はコンピュータに関して入門の域を出ないものでありますが、パソコンの勉強をしているうちに、コンピュータを企業経営・システム構築・システム管理、科学技術などの先端的分野のみならず、われわれ個人の人間形成に役立つ可能性があることを信ずるようになりました。最近のインターネット時代になって、ますますその感を深くしています。

さて、話題が変わりますが昨年(1996)の8月上

旬、News weekの編集者から突然Faxが届きました。用件は「インターネット、超ハイテクコンピュータ時代において、最近最も注目を浴びているのは通信教育である。世界中の大学がインターネットを利用して、グローバルな通信教育を行なうべく鎬を削っている。今回「Virtual University」という特集記事を組むことになったので、北海道情報大学の状況を知らせてくれ」とのことであった。

インターネットを利用した大学教育をVirtual Universityと呼んでいることに興味をひかれました。情報スーパーハイウェイが一般家庭にまで広がり、世界中の大学が、放送授業を開講するようになるかも知れない。インターネットを利用して多くの人が、大学の講義を自宅のコンピュータに持ち込み仮想大学教室のもので勉強する時代になるかも知れない。そういう時代の通信教育を先取りしてVirtual Universityと名づけたのかも知れない。こんな想像をしながら取急ぎ本学の状況をFaxで知らせてやりました。

最近時々Virtual realityという言葉を目にします。コンピュータグラフィックによって描かれた真に迫った画像のことをいうのだと思います。

本物の裏づけがあつて、Virtualは生きるのであります。マルチメディア時代の1つの心配は、造られた情報や言葉の魔術に誘惑されて真実を見失うことであります。バブルの崩壊、オウム真理教の事件などは、人々の真実をみる眼、心が失われた結果ではないでしょうか。

Virtual Universityという言葉から、とんでもない方向に発展してしまいましたが、私は21世紀は、見掛けではなく本物が尊重される時代であつてほしいと願つてやみません。

皆様のますますの御健勝を祈ります。

海外訪問記

エセックス大学で学んで

経営学科 助教授 浜淵 久志

1995年暮から翌年の夏にかけて、イギリスのエセックス大学社会学部で学ぶ機会を与えられ、大変貴重な時間をすごすことができました。様々な経験ができましたが、なかでも当大学の運営について興味を持ちましたので、ご報告させていただきます。

エセックス大学は、学生数4,000、院生1,500ほどの比較的小規模な国立大学ですが、世界106ヵ国から留学生を受け入れています。したがってキャンパスは、こんな顔・形の人がいるのかと思うほど国際色が豊かです。日本人は、ギリシャ人について多く130人ほどが学んでいます。

イギリスの国立大学でも補助金が年々カットされ、各大学は自主財源を拡大せざるを得ないのですが、この大学は留学生を増やすことで増収をはかっています。イギリス人は、学費が無料なようですが、トップクラスの学力がないと入学できません。留学生は英語ができなくとも、1年間の準備期間を与えて、比較的簡単に入学させ、授業料収入を確保するのだと聞きました。

留学生が多いのですが、職員の皆さんはとても親切で、笑顔をたやしません。社会学部の職員6人はすべて女性で、どんな相談にも乗ってください私も大変たすかりました。

親切な対応は教員も同様で、様々な機会を設けて学生と接するようにしています。たとえば、大学院ではコースが終ると、サンドイッチやワインでパーティーをして楽しむし、学生の質問や助言のために特別の時間を設けています。

日本の大学と何より違うことは、カリキュラムの組み方です。イギリスの学生は年に3~4科目しか選択しません。1科目は日本のような大教室での講義とゼミナールのセットからなるので、週6~8時間学ぶこととなりますが、それでも日本の学生が年に10科目を取るうえに、休みの曜日を設けるために1日に4~5科目も違った科目を選択しているのは余程違っています。

ゼミナールは20人未満の少人数ですので、1科

目は数人の教員が共同で担当します。少人数のゼミナール教育は徹底しています。このため学生ひとりひとりが積極的に自分の意見を持ち発言します。私は一度、大学院の日本研究コースで話をする機会を得ましたが、院生がひっきりなしに質問をするので、とても疲れました。

イギリスのゼミナール教育はうらやましい限りです。日本では小学生の時から大人数で、教師が黒板に書いたことを、学生はノートに書き写して学ぶというワンパターン教育をしています。大学になっても、教師が間違えた時も無批判にそのままノートに書き写しているあり様です。日本の学生は個性がない、画一的で発言しないという批判をよく聞きますが、現在の教育法をとっている限り、学生に多くを望むのは酷でしょう。

学生の成績は、文科系では主にエッセイ(レポート)を年に3回位書かせて評価します。学部レベルではそんなに長いものではないのですが、学生が自分の力を最大限出すことを要求するし、学生も精力を注ぎます。完成するまで何回も書き直させ、助言者を特別に設けて書き方を別に指導します。学生もエッセイを書きあげると、とても充実するのだと言います。

複数の教員が担当するので、合否のボーダーラインにあるエッセイについては、教員が協議して判定します。また不合格になっても、学生に一度弁明の機会を与えて発言させ、エッセイの不十分な点を補えば、合格させます。成績評価については、外部の専門家のチェックを受けますので、こんな甘い評価をしてはダメだと批判されることもあるようです。成績評価も極めてオープンで、参考にすべきだと思いました。

わが国では現在、長く続けてきた制度の見直しを求める声が各方面で高まっています。教育の場も無縁ではなく、思い切った改革が必要だと実感しました。

最後になりましたが、研修にあたっては皆様のご援助を受けました。深く感謝いたしております。



★第8回 蒼天祭特集★

DATE 1996.10.18~10.20

今年の蒼天祭について

実行委員長 伊藤 史貴

今年は、テーマ『メモタルフォーゼ』に表されている様に、『変化』の年にしようと思い、今までやった事なかったことに、色々挑戦してみました。まず、広く学生からイベントの募集をし、『ラブラブ・コンテスト』『アームレスリング大会』等のイベントを教室で行いました。これは、昨年の反省点だった、“ステージの上では恥ずかしい”という意見を採り入れたものでしたが、手放して成功とは言えませんでした。しかし、今年のメインイベントはなんとと言っても、ロックバンド♪Eins: Vier♪を呼んだことです。♪Eins: Vier♪を呼ぶにあたっては、苦労したことが多かったのですが、当日は大変に盛り上がり、また、演奏が素晴らしかったので、感動しました。(ファンの子からお礼の手紙も届きました!) 来年の実行委員には、今年を踏まえてまた少し規模を大きくしてもらいたいです。

最後に、ご協力頂いた皆さん、参加して下さいました方、本当にありがとうございました。

前夜祭 前夜祭では、学生の、先生たちに対する日頃の不満をぶつける『挑戦状』というを行いました。その中である先生に「ヒゲをそれ」と言ったら、翌日本当に刺っていたので、改めて『挑戦状』の威力を感じました。参加して頂いた先生、職員の皆様、ありがとうございました。

★各イベント★

§アームレスリング§

今回の大学祭において、このイベントが最大のイベントだったでしょう。腕に覚えのある強者どもが、力と力のぶつかり合い、小学生や、女の子にハンデありの対決!それはそれは見物でしたよ。

§フリースロー大会§

大会開催時間外にもゴールとボールを解放して、3 on 3をやったり等、色々な人を楽しんでもらいました。また、沢山の小学生も参加してくれて、盛り上がったイベントの一つでした。

§ジュース中身当て§

果物2種類、野菜2種類をミキサーにかけてジュースを作り、その中身を当ててもらうゲームです。やってみると不評で1回しかやりませんでした。でも、参加したみんなは健康になれたのでは?

§コーラ早飲み§

ビンに入った200mlのコーラを早く飲み干した方が勝ちという単純なゲーム。大変に盛り上がりました。コーラの炭酸にもめげず飲み干してくれた皆さん、ありがとうございました。

§マルガリータ§

ストップウォッチを押し、設定された数字に近い方が勝ち!負けた方はバツとしてハゲカツラを被ってポラロイドカメラで写真を撮るというゲーム。なんと卒業した先輩に参加して頂き、バツゲームの写真は傑作中の傑作でした。

模擬店 今年の出店数は13店舗。それぞれ個性的な模擬店を作っていました。タコ焼き屋、お好み焼き、焼きそばを出したお店、また本物のようなバーもありました。ボード、ジーンズ等、色々なものを低価格で売っていたフリーマーケット、自分達の研究を発表したところや、低年齢層を対象としたヨーヨー釣り、ミニ四駆のレース大会など例年以上にお客の入り良かった様です。

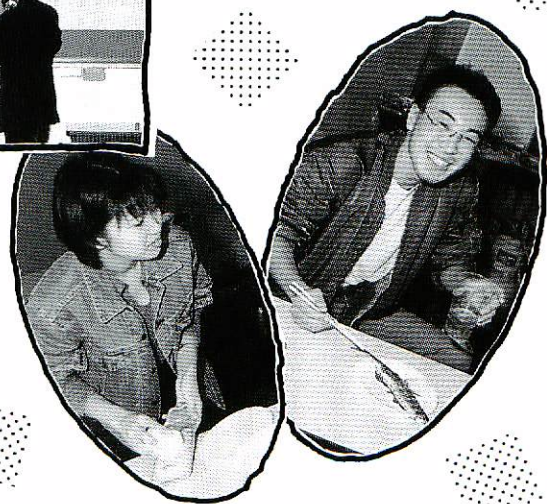
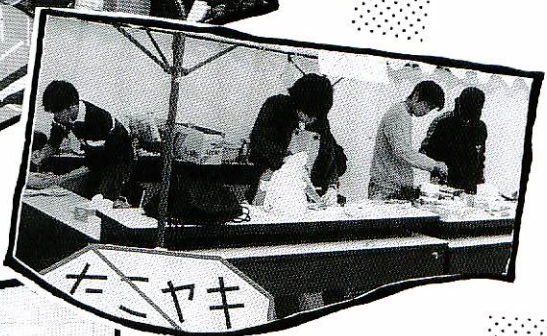
事故もなく運営でき、来校者にも喜んでもらい良かったと思います。模擬店の皆さん、ご苦労様でした。

有志バンド 有志バンドは軽音楽部を中心に行いました。舞台設営や照明等も担当して頂き、PA(音響)は親交のある業者の方に依頼しました。今年も個性豊かなバンドが集まり、それぞれに、素晴らしい、激しい、熱い演奏、及びパフォーマンスのステージとなり、スタッフ、バンドの人々や聴衆、みんなが楽しい時間を過ごせたと思います。当日を迎えるまでの苦労は、当事者でなければ分からない事が沢山あり、ここでは紹介できませんが、とにかく目の回る忙しさでした。当日は、スタッフ各々が重要な役割を担い、苦労を要しましたが、何と言っても最も準備に時間を要し、苦心するのは演奏であると思われます。この為に曲を作ったバンド、練習の為、高額のスタジオ費を支払わねばならないバンド。そして、この日の為に組まれたバンドもあります。それぞれが、幾重にも練習を積み、それにスタッフの努力が添えられ、有志バンドが成り立っていました。演奏、裏方共に、素晴らしい仕事が出来たと思います。

◆ 献血にご協力頂いた31名の皆様
本当にありがとうございました ◆

MEMORIAL PHOTO

— by 蒼天祭 —





浅岡ゼミナール

安宅 孝代・竹内 咲子

我等、浅岡ゼミは、経済学を5時半までやっている、とても勉強好きな人々で構成されています。授業中はみんなが必死で考え込むために、静かになります。しかし、休み時間になると、今までとは打って変わって、元気です。また、我ゼミでは、専用の焼き肉台を2台も持っています。誰か1人が焼き肉という言葉が発すると、すぐゼミ中に広がり、先生も、もちろんのり気になるのです。とても晴れている日は、誰が何と言おうと焼き肉大会です。今はもう外が寒いので、来年を楽しみにしているところです。

このように、勉強以外では、賑やかな奴等だ、と思われるかもしれませんが、しかし、実際もそうです。私が思うには、経済学とは、今まで経済学者が発見した法則、理論などを理解し、その上で実証する、ととらえているため、質問することはとても難しいのです。

それでも、私たち、経営学科の学生としては、経済学を学ぶことは、他の科目を学び、理解するうえで、重要だと思います。

そして、社会に出た時に、経済学の知識によって、物の考え方、とらえ方が変わってくると思います。自分自身のしっかりした意見が持てるでしょう。それが誰かに評価されることがあるなら、とてもうれしいことです。



林ゼミナール

林ゼミとは何ぞや 4年 佐野 渉

さて、まず林ゼミは何をやつとんのや、という所から。

林ゼミでは「関数プログラミング班」と「並行プログラミング班」という、研究テーマによって2班に分かれています。

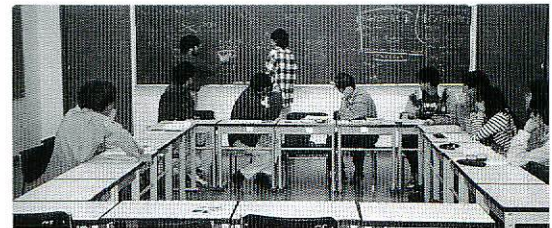
「関数プログラミング班」の方は、関数という物が、コンピュータの中ではどの様になって、どんな感じで処理されていってるか、というような研究。一方、「並行プログラミング班」の方は、複数のプログラムが同時に実行された時、何が起こるか、というような研究。

たぶんこう書いても訳わからんと思います。そらそうでしょう。実際勉強している僕でも理解できてないほど難解です。時々、林先生ですら分らずに「どうなつとんねん」とみんなで討論する場合があります。

けど、ゼミはやってて楽しいです。学生一人一人が発表して、それに対し「あ〜だ、こ〜だ」と意見を言い合うのは色々勉強になります。

最近では、インターネットにゼミのホームページを作成中です。この前、卒研室に行ったら、「林ゼミ」というカッコエエタイトルが出来上がってました。僕の卒業研究もそこにのせるつもりです。

卒業研究!? しまった! まだなんも手つけてへん。僕、卒業できんのかこんなん。





ソフトテニス部

代表 千徳 亮

お初にお目にかかります、ソフトテニス部です。今、私達は毎週火曜日の夕方&早朝(曜日は不定)に張り切って練習に汗を流しています。部員数は、男子15名、女子6名、マネージャー3名の計24名でフル稼働中。大会にも積極的に出場しています。結果といえば、3年前の地区大会で堂々の3位入賞という輝かしい成績を残していて、その時の喜びといったら、賞状をカラーコピーして部員に配ったというほど。それも、今となっては懐かしい話です。それ以来、残念ながら勝ってはいませんが、みんな楽しくプレイしています。

部活ばかりやっている訳ではありません。春は、お花見・焼肉パーティー、夏は、海水浴・キャンプ、秋は、お月見・紅葉狩り、冬には、スキー・温泉などなど、イベントが盛り沢山!!(半分ウソ、半分ホント。)で、テニス以外でも、楽しいことをいっぱいやっています。

みなさんは、ソフトテニスをマイナーなスポーツと思っているのですが、本当にその通りです。しかし、経験した者だけが味わえるという、不思議な魅力がソフトテニスにはあるのです。

あなたも、この不思議な魅力を体験しに来ませんか? きっと虜になるでしょう。それでは。



硬式テニス部

主将 正木 仁朗

我々、硬式テニス部は現在25名程の部員で構成されています。初心者からテニスクラブでバイトをしているような上級者までが集まって練習しています。大会で上位へ進むことを目標とする人や、テニスを楽しめればそれでいいという人など個人によってテニスに対する考え方は様々です。そのような中で、部員が唯一、1つの目標に向かうものが王座です。現在、情報大は6部と一番下の部に属しています。今年も5部への昇格はなりませんが、数年前に比べると、全体的にここ2年間はかなりレベルアップがされ、結果も出せるようになりました。個人的にも、春季大会では4年の南明男、秋季大会でも同じく4年の大場靖典が本戦出場を果たしました。この結果は、大学側の多大なテニス部への理解度によるものが大きいと考えます。その中で、来年はこれまで以上の成績を上げるためにも練習に励んでいきたいと思えます。



CLUB自慢のコーナーでは、原稿を募集します。クラブ紹介や、部員募集に活用して下さい。但し、発行回数に限りがある為、掲載出来ない場合もありますのでご了承下さい。

詳しくは図書室まで。



Library Information

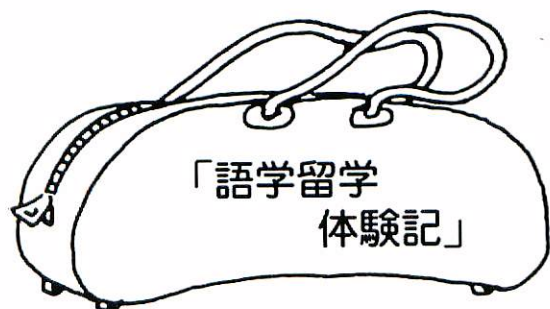
出不精になりがちな季節ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。勉学に、アルバイトに、就職活動にとさまざまだと思いますが、図書に親しんでみるのも良いのではないのでしょうか。

上半期(平成8年4月～9月)の図書別貸出状況を見てみたところ、人気の本の第1位は「ミクロ経済学」(武隈慎一著 新書社)でした。皆さんの向学心が伺えますね。他は同率で2位～3位を争っていました。「ソフィーの世界」(ヨースタイン・ゴルデル著 日本放送出版協会)、「遺産(上・下)」(シドニー・シェルダン著 徳間書店)、「24人のピリー・ミリガン(上・下)」(ダニエル・キイス著 早川書房)など、一般書も多く読まれているようです。

専門書の多い図書館ですが、今話題になっている本も(少しは)入っています。以下は、最近入った本のリストです。図書館で探してみてください。

書名	著者名	出版社
図書館警察	ステイーヴン・キング 著	文芸春秋社
神の吹かす風(上、下)	シドニー・シェルダン 著	アカデミー出版
29歳のクリスマス(上、下)	鎌田敏夫 著	新潮社
蒼穹の昴(上、下)	浅田次郎 著	講談社
瀕死のジャーナリズム	猪瀬直樹 著	文芸春秋社
蛇を踏む	川上弘美 著	文芸春秋社
優しい時間	灰谷健次郎 著	読売新聞社
河童の手のうち幕の内	妹尾河童 著	新潮社
脳内革命2	春山茂雄 著	サンマーク出版
六の宮の姫君	北村薫 著	東京創元社
八匹の子豚(上、下)	ステイーヴン・ジェイ・グールド 著	早川書房
ぼくらの資本論	橋本治 著	小学館
ふたり	唐沢寿明 著	幻冬舎
五分後の世界	村上龍 著	幻冬舎
クレオパトラ(上、下)	宮尾登美子 著	朝日新聞社
人生の価値について	西尾幹二 著	新潮社
秀吉(上、中、下)	堺屋太一 著	NHK出版
深い川	遠藤周作 著	講談社
「死の医学」への日記	柳田邦男 著	新潮社
水に似た感情	中島らも 著	集英社
(ザ)・インターネット	リオノ・フライシャー 著	ソニー・マガジズ
世界ハッカー犯罪白書	セルジュ・ル・ドラン 著	文芸春秋社
人間を幸福にしない日本というシステム	カレル・ヴァン・ウォルフレン 著	毎日新聞社
女薬剤師	イングリート・ノル 著	集英社
忘れられた帝国	島田雅彦 著	毎日新聞社
ロングバケーション	北川悦吏子 著	角川書店
あゝころ	さくらももこ 絵と文	集英社
マーク・トウェインのジャンヌ・ダルク	マーク・トウェイン 著	角川書店
凍える牙	乃南アサ 著	新潮社
闇に消えた怪人 グリコ・森永事件の真相	一橋文哉 著	新潮社
ジャスト・ドゥ・イット ナイキ物語	ドナルド・カツ 著	早川書房

また、図書室では皆さんから希望があった図書も購入しています。読みたい本のある方は、図書室前掲示版に貼ってある「学生希望図書アンケート」に本の題名等を記入し、図書室カウンターに持って来て下さい。なるべく希望に添うようにしたいと思っています。(尚、余りにも変な本や、マンガ等は購入できませんので注意してください。)



～ 中国編 ～

3年 山口 要

私は1996年の7月19日から8月13日まで上海の復旦大学に語学研修に行った。私は返還後の香港と中国の関係について興味があったため、卒業後に中国に留学しようと決意し、当時教養ゼミナールの担当教師だった玉置先生のもとに相談に行ったところ、留学する前に一度中国を見てきたほうがよいということで、この語学研修をすすめられ参加するに至った。教養ゼミナールにおいて玉置先生に鍛えてもらったり、中国語会話のテレビ・ラジオなどで勉強していたので、ある程度は努力したように思う。そして期待と不安が交錯しながらも中国へ出発したのである。

そして、中国に着いて語学研修が始まったのだが、私の中国語は一応発音が良かったためか、中国人の先生に通じるのだが、先生が話す言葉が、私には皆目聞き取れないのである。玉置先生からも聞き取りは大事だと言われていたが、そのことを身を持って体験した。授業では、他の人が次々

と先生の言う質問に答える中、私だけが答えられず孤立する状態が続いた。しかし、外国において自分の語学の欠陥を認識できたことは、今回の語学研修において一番の収穫だったと思います。授業のほうは午前で終わってしまうので、午後は少しでも中国語を話そうと外へ出かけました。先ほど述べたとおり、聞き取り能力がほとんど欠如しているため、的外れな事を言って恥をかいたこともありましたが、失敗を恐れずに行動しました。言葉を覚えるには、積極性と良い味のずうずうしい性格が必要だと思います。

あと、大学には韓国人がたくさんいて、私自身、韓国人と接するのは初めてだったのですが、韓国人の性格なども知ることができ、貴重な体験をしたように思います。今回の語学研修は、語学の他に多くの体験を私にもたらした気がします。もちろん、長期留学の決意をさらに固めるものもなったように思います。皆さんも、日本に閉じこもらずに、外国に出て、貴重な体験をなされてはどうでしょうか。



1. 提出期限

平成9年1月30日(木)17時30分…提出締め切り 提出先→図書室

平成9年2月17日(月)……………完成・配布

学生はゼミ担当教員から、お受け取り下さい。

2. 書式

① A4判1,600字詰め、1～2頁

② 連名の場合は、学籍番号順(番号が若い順)に名前を並べる。

③ 文字の大きさは下記のとおり統一する。

*題名 → 4倍角

*副題、氏名 → 2倍角

*学籍番号、学科、ゼミ名、ほか → 全角

④ ゼミ名の形式を統一する。

例 ○ 山田 太郎ゼミ (名字と名前の間は、全角1スペース)

× 山田ゼミ (名前なし)

× 山田(太)ゼミ (名前省略)

3. ページは打たない。

4. 掲載順は特に指定がなければ、ゼミ毎で、学籍番号順に掲載します。

(論文の内容などによって、掲載順の指定があれば、提出の際に申し出て下さい。)

◆◇ 教職員の動向 ◆◇

☆ 大 学 ☆

◇教員人事◇

9月1日付昇任

助教授 森山 洋一

◇職員人事◇

10月1日付昇任

会計課 図書係長 佐藤 貴俊

就職課 就職係長 桑川 和広

大学院課 教務係長 高田 かおり

通信教育部事務部

教務第一係長 木田 洋

教務第二係長 吉村 美穂

☆ 法人本部 ☆

◇職員人事◇

10月1日付昇任

総務課 総務係長 小松田昭人

東京事務所 企画係長 瀬沼 清美

◆◇ 10月～11月主要行事 ◆◇

☆ 大 学 ☆

10月11日(火) 教授会

18日(金) 第8回 蒼天祭
～20日(日)
11月8日(金) 教授会

☆ 通信教育部 ☆

10月1日(火) 平成9年度入学生出願受付開始

4日(金) 地方スクーリング

～6日(日)

21日(月) 第1回入学者選考委員会

25日(金) 地方スクーリング

～27日(日)

11月5日(火) 後期レポート受付期間

～11日(月)

15日(金) 地方スクーリング

～17日(日)

18日(月) 第2回入学者選考委員会

22日(金) 教育センター・サブセンター教務
責任者会議

◆◇ 広報活動 ◆◇

◎TVコマーシャル(放送済み分も含む)

UHB 12月9日～12月31日

HTB 12月1日～1月15日

2月10日～2月22日

編集後記

もうすぐ今世紀最大といわれるヘール・ボップ彗星が地球に接近します。今日では彗星も神秘的な対象ではなくなってきましたが、我々の祖先はどんな思いでこの壮大な天体ショーを観てきたのでしょうか。万葉集の柿本人麻呂の歌に「東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ」という句があります。炎(かぎろひ)は曙の茜色の光を指すと解釈するのが一般的ですが、異説もあります。それは、炎の正体はハレー彗星だということです。コンピュータを使ってシミュレーションをしてみるとちょうど人麻呂の生きていたと思われる時代にハレー彗星が飛来しています。しかも月が西に沈みかける頃、彗星の尾が東の地平線に直交して伸びているのです。光害のない夜空に伸びる彗星の尾はあたかも「炎が立って」見えたことでしょう。今年の春はそんなことに思いを馳せ、夜空を覆い尽くすほどの巨大な彗星に出会ってみたいものです。

「ななかまど」への御意見・御提言などがありましたら、編集委員(平子・大島・伊藤・図書室の3名)までお寄せください。(I)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第3号

発行日	平成9年1月1日
発行	北海道情報大学
編集	学内報編集委員会